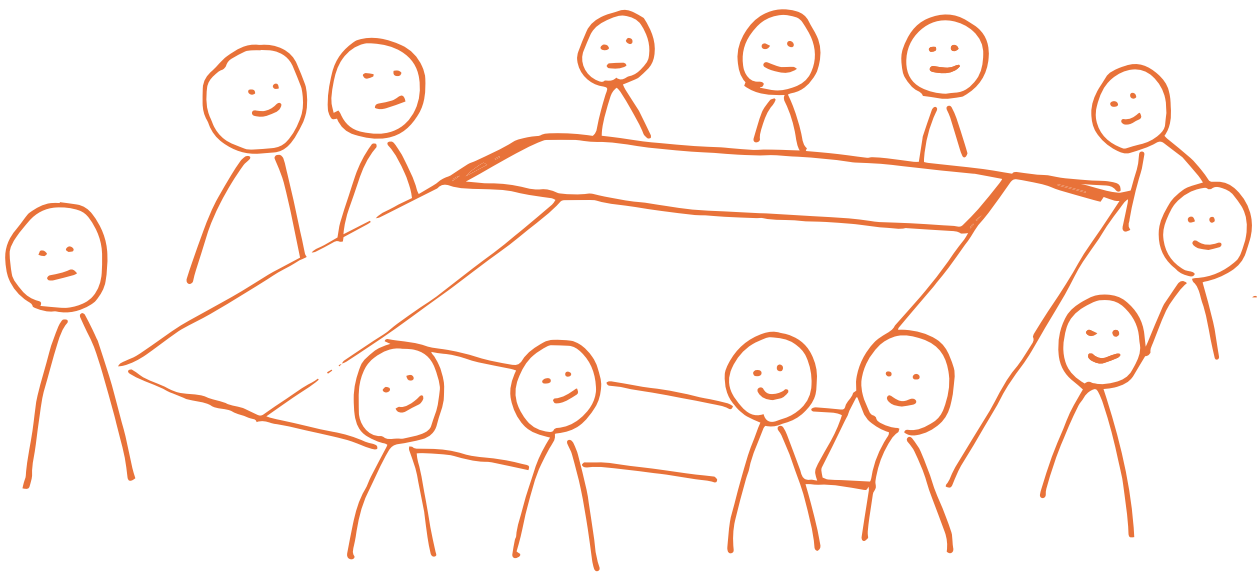


マラナ・タ



写真を撮り忘れたため編集長によるイメージ図

～おしながき～

秋の青年修養会報告「お祈りはなぜ大切か」

マラナタ委員

青年修養会報告

秋の修養会として、会員のあんなちゃんが出した「お祈りはなぜ大切か」という題について、青年会のみんなで意見交換をする機会を持ちました。

【発題のきっかけ】

今までの私は「お祈りは大切なこと」と理由もなく漠然に思いながら生きていました。ですが、日々を過ごしていく中で「お祈りはしなくてはならない」という焦りに駆られて、祈ることに苦手意識を持ち、遠ざかっている自分がいることに気付きました。これからも自分がクリスチャンであり続けるために改めて「なぜお祈りは大切か」という根本的な部分に着目し、青年と交流したいと思い発題に至りました。(あんな)

心を繋ぎ止めておくためにも祈ることは大切だと感じる。

毎日で飯の前と寝る前にお祈りをする習慣がある。でも最近は形骸化してしまったような気がする。

1人の時と人前でする祈りはちょっと違うように思う。お祈りをする事で教会や神様のことを覚えていられる。神様との会話だから大切だと思う。

不安な時とか、心の拠り所として祈る。

教会で代表として祈る時は特に、普段とはまた違った言葉遣いをするから余計に難しい。

自分のうちを裸にされているような気がするからか、慣れた安心できる場所でも緊張する。

祈りで見栄を張ろうとしてしまうのはなんで？教会学校ではお祈りできるのに、他の場になると途端に難しく感じる。

みんなの意見

今ある幸せを構成するものへの感謝や、大変な思いをする人を想って祈る。

私たちが気づいていなくても神様は語りかけてくれていると聞いたことがある。祈りは私たちからできる唯一の返事であり、繋がりを保つ手段だと思う。

その人やそのことについて想うことも祈りと言えるのでは。個人で祈る時はそんなに難しく考えなくても良いんじゃないか。

何を祈れば良いのか迷う時は主の祈りをする。

日曜以外にクリスチャンであることを実感することがあまり無いからこそ、お祈りすると自分がクリスチャンであることを実感できる。

相手に対して、あなたを想っているよという意味で「祈ってるよ」と言うのはクリスチャンならではの言葉で良いよね。

祈りは神様との会話であり、一緒に礼拝する人たちとの意識を共有するものだと思う。

【発題者なりの結論】

話し合いを進めていく中で、私自身がお祈りを「義務」と感じてしまったことが自分を苦しめていたことに気付きました。お祈りは義務ではないからこそ、目には見えない神様がそばにいてくださることを心から実感できる時間なのだと考えました。また、私たち一人ひとりが神様と結ばれている恵みを知るきっかけでもあるからこそ、お祈りは大切なのではないかなと思います。

とても有意義な時間になりました♪(あんな)

【今回同席いただいた森里先生に改めて意見をいただきました】

「なぜ必要か」という問いは「祈らなければならない」という私たちの思い込みから来ているのでしょうか。《絶えず祈れ》という言葉があります。教会の標語にもなっています。それだけを取り出すと私たちは思い違いをしてしまいます。あの言葉は、「これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです」と続くのです。つまり、イエス・キリストが私たちに何をして下さったのかが大切なことです。そのことを思う時、自分の現状を越えて、神への感謝、喜び、祈りが湧き出てくるのです。この関係が断ち切られることのないようにと私たちに注意しています。それが「“霊”の火を消してはいけません」という言葉です。だから、ここの言葉は《あなたがたは喜んでいい。感謝していい。祈っていい》という言葉なのです。説明しきれませんが長くなるので、ここまでにします。質問はいつでも受け付けます。

編集長より

私も代表として祈るのはすごく苦手ですが、このことについてまとめるのは難しいのでおきます。思い返せば、1人でお祈りするときは途中から喋り言葉に変わり、ぐだぐだになってしまいがちながらも思ったことをそのままに出していました。話し合いを通して、お祈りをそんなに難しく捉えなくても良いのかなと思うことができました。またこういう機会が持てるのを楽しみにしています。

前回からかなり時間が経ちました。今年の夏は役職持ちの主要メンバー多忙につき、青年会の活動ができないまま颯の如く過ぎ去っていきました。クリスマス会の予定は立てているので次はその報告かと思います。